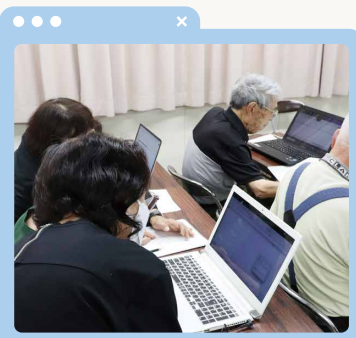




講師の説明を聞きながら、真剣にマウスを動かす受講生



講義中もサポーターが巡回し、分からないことは気軽に質問できる

回で完結するようにしています。せっかく学んでも、みんな忘れてしましますから(笑)。ここに来て、わかる範囲で楽しんでもらえばいいんです」と話す。目に見える成果を求めているわけではないのだ。

しかし、思わぬ効果も感じているという。そんなネットひまわりの会員には認知症になる人が非常に少ないという実感がある。パソコンに向き合う時間そのものが、静かな予防になっているのかもしれない。

地域のデジタル教育を支えている丹羽さんが、会員に教える際に心掛けているのは「押し付けない」ことだ。

「こういつことが出来ますよ、とは伝えませんが、覚えなさいとは一切言いません。一度で全部を覚えなくていい。来るたびにまた思い出せばいい」と丹羽さんは話す。

会員の中には、自分が思ったように手を動かせない人も少なくない。それでも真剣に耳を傾け、「やってみよう」

これは、高齢者のデジタル活用を後押しする国の政策を背景に、愛知県が独自に整備した制度で、市町村からの推薦を受けた人を県が登録する仕組みになっている。取得にはオンライン講習の受講とテストが必要だ。

県から市へ推薦の依頼があった際、市とつながりのあった尾北シニアネットから推薦されたひとりが丹羽さんだった。

サポーターとしての活動は、尾北シニアネット内の講師業にとどまらない。市が主催する生涯学習講座の講師や、江南市地域交流センターで開かれるスマホ・パソコン初心者相談会では、相談員として市民に対応している。

丹羽さんには、実はもうひとつの顔がある。「高齢者デジタルサポーター」だ。

これは、高齢者のデジタル活用を後押しする国の政策を背景に、愛知県が独自に整備した制度で、市町村からの推薦を受けた人を県が登録する仕組みになっている。取得にはオンライン講習の受講とテストが必要だ。

デジタルの不安に寄り添う

CLICK



わからないことは、その場で質問

尾北シニアネットの設立から24年。パソコンやインターネットが特別なものだった時代は過ぎ、今ではスマートフォンやタブレット、ネット予約、キャッシュレス決済が日常に溶け込んでいる。

「便利になりましたが、面倒くさい世の中になってきたな、という感覚もあります。便利さと面倒くささは、いつも一緒に動いているものだと思えます」と丹羽さんは言う。

その象徴とも言えるのが、ウインドウズのバージョンの変化だ。パソコンが急速に普及するきっかけとなったウインドウズの登場から現在まで幾度ものバージョンアップが行われている。

「変わったことをその都度伝えていかないと、みんな付いてこれません。会員が持っているパソコンの機種やバージョンはバラバラなので、足並み

をそろえるのは大変です」と能祖さんは話す。それでも、この変化がパソコンに触れる人を増やし、会員たちのやりがいにもつながってきた。

こうした変化に対応するため、丹羽さんは日頃から、新しい情報を絶やさずチェックするよう心掛けている。近年は、マイクロソフトが開発したAIの講習会も開くなど、学びの内容も時代に合わせて広がっている。

尾北シニアネットが今、目を向けているのは「意識の高齢化」をどう防ぐかということだ。パソコンやスマートフォンという道具を通じて新しい知識に触れ、「できた」という実感を積み重ねていく。それが会員たちの自信につながっている。

会員たちはパソコンを介さなくても気楽に集まれる仲間に変化していった。それこそが、24年間、尾北シニアネットが育んできたものなのかもしれない。



高齢者デジタルサポーターであり、講師を務める丹羽書さん(左)と、尾北シニアネット発足当初から在籍している能祖優さん

スマホ・パソコン初心者相談会

初心者を対象としたスマートフォン、パソコン操作に関する相談会を開催!

会場 / toko+toko+labo (江南市布袋駅東複合公共施設) 1階
江南市地域交流センター 会議室1

開催日 / 毎月第1～第4水曜9:30～11:00

予約不要

■尾北シニアネット

現在、ネットひまわり、ネットサロン平和、フォトユー、パークゴルフクラブ、スマホ・タブレットサークルスマイルの5つのサークルに分かれて活動中
問合せ・入会は尾北シニアネットホームページより

WEB

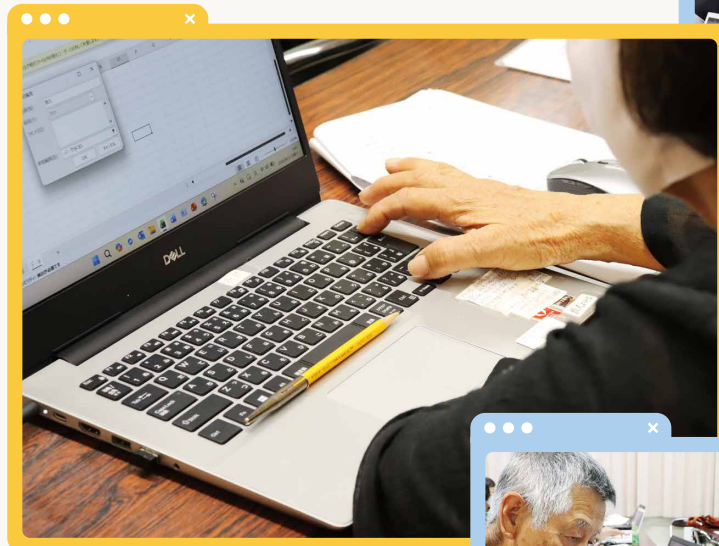


WEB

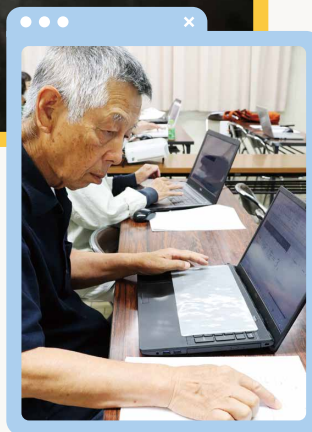


■「ネットひまわり」

活動日 / 毎月第2・第4金曜日 9:30～11:30
会場 / 江南市宮田地区学習等共用施設1F



「パソコンを道具に、人生を楽しく暮らそう」という呼びかけから始まった尾北シニアネット。スマホやパソコンを敬遠しがちなシニアも多いなか、彼らは積極的にデジタル社会と向き合ってきた。24年間、その活動を支えてきたものとは――。



巻頭特集

パソコンのある

暮らしを楽しむ

尾北シニアネットで広がる、豊かなシニアライフ

デジタルカメラ、スマートフォン、タブレットといった身近な道具の使い方はもちろん、ゴルフや東京株式会社市場に上場する銘柄の研究など、趣味を中心としたサークル活動が行われるようになった。それとともに会員数は右肩上がりに増えていった。

設立者は2003年にNPO法人格を取得し、事業の拡大を目指した。しかし、会員の多くはシニア世代。「仲間たちと楽しむことを優先したい」と考える人が多かった。そうした声を受け、2012年から任意団体として今日まで活動を続けている。

現在、尾北シニアネットは5つのサークルに分かれて活動している。パソコン技術の向上を目指す「ネットひまわり」。デジタルカメラ愛好家が集う

パソコンやインターネットが暮らしに浸透しはじめた2002年。江南市のひとりの男性により「パソコンを道具として使い、人生を楽しく暮らそう!」と設立された尾北シニアネット。新聞やラジオを通じた呼びかけに、平均年齢60代前半、約60人の会員が集まった。

当初の活動は、立ち上げメンバーによるパソコンの勉強会が中心だった。しかし、机を並べて学ぶうちに、会員同士の関心はパソコンの外側にも広がっていく。

「フォトユー」は、年2回の写真展を開催するほどの本格派だ。スマートフォンやタブレットの操作、便利なアプリの使い方を学ぶ「スマイル」には、現在約50人が所属し、女性会員が多いのが特徴。ほかに、健康づくりと仲間とのコミュニケーションを目的とした「パークゴルフクラブ」、カフェでモーニングタイムを過ごしながら語らいを楽しむ「ネットサロン平和」がある。

パソコンをきっかけに広がった5つのサークル

CLICK

尾北シニアネットのサークルのひとつ「ネットひまわり」の教室では、この日エクセル関数を使ったサイコロの裏目足し算について学んでいた。会員たちは真剣な表情で画面に向かい、ひとつひとつの操作を確かめるようにマウスを動かす。講師を務めるのは、会員のひとりである丹羽書に「わさとし」さんだ。もともと「コンピュータ関係の仕事をしていたことから講師を依頼され、10年近くこの教室を支えている」。

ネットひまわりは2004年に現代表の奥村忠さんにより発足。毎月第

忘れてもいい
わかる範囲で楽しめれば

CLICK

2・第4金曜日に勉強会を開いている。かつてはインターネット、エクセル、ワード、画像編集の4つの教室が開かれ、ピーク時は65人の会員が在籍していた。

しかし、高齢化とともに会員数は減少していった。

「6年ほど前に解散も検討しました。でも、残った会員一人ひとりに意向をたずねると、続けてほしいという声が多くあがったんです」と語るのは、発足当初から参加している能祖優(のうそまさる)さんだ。

現在の会員数は男性11人、女性7人の18人。平均年齢は81歳、最高齢は88歳という顔ぶれで、多くが6年前に活動の継続を希望したメンバーたちである。

講義のテーマは毎回変わる。ワードを使ったお絵描き、エクセルでの数遊び、スマートフォンの操作やメッセージアプリの使い方、写真編集など、テーマは1週間前にメールでリストで会員に通知される。

丹羽さんは「勉強会のテーマは、1



月2回の勉強会には、ほとんどの会員が休まず顔を出す